

迫力ある水島工業地帯

瀬戸内海には無数の島々が浮かんでいる。大きな島、小さな島そして様々な形をして浮かんでいる。見ていて飽きることはない。本州と四国を結ぶルートには3本あるが、その内の一つが瀬戸大橋である。瀬戸内海をまたいで本州（岡山県倉敷市）と四国（香川県坂出市）を10のはしの総称である。

所用で宿泊した倉敷シーサイドホテルはその近辺にあった。素晴らしいホテルであった。朝食後のロビーには白人の作業服を着た団体が待機していた。おそらくこの近辺の工場との技術交流なのであろう。このホテルには美しい芝生庭園があり歩いてみた。目の前には広々とした瀬戸内海と霞がかかった島々。そしてアット！一瞬目が釘づけとなってしまった。臨海部には何本もの巨大な煙突をはじめ、複雑な形をした工場が続いていた。その迫力に私は圧倒されてしまった。この海岸線一帯に開けたのが水島臨海工業地帯であった。



高梁川河口に形成され多三角州。干拓地沿岸海面の埋立地等。石油精製、鉄鋼生産、石油化学、重化学工場、各種機械生産、食品工業など日本が誇る一大コンビナート。日本を代表する大手企業が参画している。日本経済の一翼を担っているのだ。安全と安定と更なる発展を祈らざるを得ない気持であった。

撮影 2011年10月秋



